

令和3年7月15日 メルボルン交流抄

## 1964年東京オリンピックの思い出

現在、在メルボルン総領事館の展示スペースにおいて、メダル、賞状、代表ブレザーなど、1964年東京オリンピックに関連する品々を展示しています。(2021年9月上旬まで)。今回ご紹介する Peter Doak 氏は、12歳の時(1956年)メルボルンで開催されたオリンピックを親に連れられて観に行ったそうです。そこでオーストラリアの競泳チームの活躍を目の前で見て感銘を受け、自分もオリンピックに出たいと一念発起。それからひたむきに努力を重ね、見事、8年後の東京オリンピックの代表に選ばれて、男子自由形400メートル・リレーで銅メダルを獲得されました。ドーク氏によれば、リアルタイムでオリンピックを見た子供たちの中に8年後、12年後のオリンピックに出る選手たちもいるかもしれない、自分がまさにそうであった、今回の東京オリンピックは十数年後のブリスベン・オリンピックの出場選手やメダリストを産み出す重要な機会である、とのこと。その大変貴重なメダルを総領事館で特別展示することに快諾いただいて、他の記念品とともに展示しています。



先日、メルボルン大学関係者が総領事館を来られたときに展示物をご覧になり、「本物のオリンピックのメダルを見るのは初めてです」と言って喜んでおられました。そして「誰のメダルですか」と聞かれ、「ピーター・ドーク氏」というと「えっ！ピーターは昔自分の水泳のコーチだったよ。」とのこと。そのことをドーク氏に伝えると、「彼のことは良く憶えている、全国レベルの競技まで行ったことがある自由形の得意な選手だった、よろしく伝えておいてほしい」と。総領事館の展示をきっかけに人の繋がりが広がっていくような気がしました。

また、別の日にドーク氏が特別展示の様子を見にこられました。その時たまたま総領事館に来られた子供連れのご家族に、この方がここにある銅メダルを57年前に東京オリンピックで取ったドーク氏ですと紹介すると子供達もびっくり。ドーク氏は驚く子供達に満面の笑顔で握手。また、子供たちが皆週1、2回水泳を習っていると聞いて、さらに満面の笑顔で握手。ちなみに、ドーク氏によれば、水泳を習う人は背泳ぎから習うのが良いそうです。手足の動きをまず体で覚えることが重要で、息継ぎのやり方はその次の段階にした方が良いそうです。



Tokyo, together!

島田順二